

(別添2)

## 事業評価の結果（内容評価項目）

福祉サービス種別 保育所  
事業所名 城山保育園

【第三者評価の判断基準】

長野県福祉サービス第三者評価基準の考え方と評価のポイント、評価の着眼点【保育所】共通項目に係る判断基準による

○判断基準の「a、b、c」は、評価項目に対する到達状況を示しています。  
 「a」評価・・・よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態  
 「b」評価・・・aに至らない状況＝多くの施設・事業所の状態、aに向けた取組みの余地がある状態  
 「c」評価・・・b以上の取組みとなることを期待する状態

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	1 保育内容	(1) 保育課程の編成	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 1 保育課程は、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨をとらえて編成している。</li> <li>■ 2 保育課程は、保育所の理念、保育の方針や目標に基づいて編成している。</li> <li>■ 3 保育課程は、子どもの発達過程、子どもと家庭の状況や保育時間、地域の実態などを考慮して編成している。</li> <li>■ 4 保育課程は、保育に関わる職員が参画して編成している。</li> <li>■ 5 保育課程は、定期的に評価を行い、次の編成に生かしている。</li> </ul>	○保育課程は、佐久市の基本理念に基づき新保育指針等の趣旨をとらえて編成され、保育園の特色を生かして保育計画が作成されています。 ○保育計画は前年度の評価・反省を生かして作成し、子どもの生活や発達の連続性に留意しながら作成されています。 ○子どもの心身の発達や地域とのつながりが保育計画に反映され、一貫性をもって月案、週・日案へとつながり保育が行われています。
		(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 6 室内の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を、常に適切な状態に保持している。</li> <li>■ 7 保育所内外の設備・用具や寝具の衛生管理に努めている。</li> <li>■ 8 家具や遊具の素材・配置等の工夫をしている。</li> <li>■ 9 内装等には、木材を利用している。</li> <li>■ 10 一人ひとりの子どもが、くつろいだり、落ち着ける場所がある。</li> <li>■ 11 食事や睡眠のための心地よい生活空間が確保されている。</li> <li>■ 12 手洗い場・トイレは、明るく清潔で、子どもが利用しやすい設備を整え、安全への工夫がされている。</li> </ul>	○一人ひとりの子どもがゆったりと安心して過ごせるスペースが園内各場所にありません。園舎突き当りの日当たりのよい狭空間や中央の絵本コーナーはままごと遊びやクールダウンに適し、訪問日当日も心地よさそうにごっこ遊びをしたり保育士と安心して過ごす子どもの姿がありました。 ○年齢に応じた室内環境が設定され、コーナーあそびや制作活動、戸外あそびなどを子どもが自由に選択し楽しめる工夫がみられました。 ○未満児クラスでは発達段階や個人差に応じた活動ができるよう床スペースと畳スペースが分けられていたり年齢別の保育室が繋がる設計で快適さが伺えました。

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
		② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	b)	■ 13	子どもの発達と発達過程、家庭環境等から生じる一人ひとりの子どもの個人差を十分に把握し、尊重している。	○個々の家庭環境や生活リズム、発達過程を職員全員が把握し、担任を中心に加配保育士や補助の保育士がチームとして子どもと関わり子どもの気持ちに沿った保育をしています。 ○子どもへの対応は丁寧でわかりやすく、保育士が膝を折って子どもの目線に合わせた言葉がけをしたり必要な援助がされていました。 ○子どもにとってより安心してつろいだ時間の確保ができるよう保育の流れや働きかけを更に学びたいという園の前向きな姿勢が伺えました。よりよい保育士の援助を求めた園内研修等が期待されます。
				■ 14	子どもが安心して自分の気持ちを表現できるように配慮し、対応している。	
		■ 15	自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとろうとしている。			
		■ 16	子どもの欲求を受けとめ、子どもの気持ちにそって適切に対応している。			
		■ 17	子どもに分かりやすい言葉づかいで、おだやかに話している。			
		□ 18	せかさず言葉や制止させる言葉を不必要に用いないようになっている。			
		③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a)	■ 19	一人ひとりの子どもの発達に合わせて、生活に必要な基本的な生活習慣を身につけられるよう配慮している。	○生活習慣を身につけるための指導計画が作成され、保育士自身がその大切さを理解して援助をしています。できる、できないではなく自分でやろうとする気持ちを育て達成感や自己肯定感がもてることを大切にしていました。 ○家庭環境や発達過程、個人差を考慮して自分でやろうとしたり、困っている姿を見逃さずに適切な対応がされていました。 ○遊びや食事、休息等、子どもの生活リズムに沿って一日の流れが設定されています。
				■ 20	基本的な生活習慣の習得にあたっては、子どもが自分でやろうとする気持ちを尊重して援助を行っている。	
				■ 21	基本的な生活習慣の習得にあたっては、強制することなく、一人ひとりの子どもの主体性を尊重している。	
				■ 22	一人ひとりの子どもの状態に応じて、活動と休息のバランスが保たれるように工夫している。	
				■ 23	基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて子どもが理解できるように働きかけている。	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 24 子どもが自主的・自発的に生活と遊びができる環境を整備している。</li> <li>■ 25 子どもが自発性を発揮できるよう援助している。</li> <li>■ 26 遊びの中で、進んで身体を動かすことができるよう援助している。</li> <li>■ 27 戸外で遊ぶ時間や環境を確保している。</li> <li>■ 28 生活と遊びを通して、友だちなどと人間関係が育まれるよう援助している。</li> <li>■ 29 子どもたちが友だちと協同して活動できるよう援助している。</li> <li>■ 30 社会的ルールや態度を身につけていくよう配慮している。</li> <li>■ 31 身近な自然とふれあうことができるよう工夫している。</li> <li>■ 32 地域の人たちに接する機会、社会体験が得られる機会を設けている。</li> <li>■ 33 様々な表現活動が自由に体験できるよう工夫している。</li> </ul>	<p>○県創設の信州型自然保育認定制度（やまほいく）に認定され、自然体験保育を実践しています。</p> <p>・近くの城山公園やお寺等に積極的に出かけて斜面を使って思い切り体を動かす体験をしています。</p> <p>・自然の中で開放的な気持ちを味わったりちょっと頑張れば達成できる課題を保育士が提供しながら五感に働きかけのびのびとした活動が展開されています。</p> <p>・収穫した自然物（木の実や小動物など）で制作をしたり飼育をするなど自然を身近に感じられるような保育の工夫がみられました。</p> <p>○散歩や行事を通して地域の方と交流したり、マナーや社会生活のルールを知るなど様々な体験ができています。</p> <p>○段ボールや廃材など様々な素材を用いて子どもたちが自由に制作遊びが楽しめるような時間を設定したり、やりたいことができるよう用具が揃えられていました。保育士は子どもの指先の力や発想力の育ちを見逃さず自由な活動の中にも保育材選びなど発達に沿った環境作りをしていました。</p> <p>○絵本コーナーは厳選された絵本が子どもの目に入りやすく、また思わず手に取ってみたいくなるようなレイアウトの工夫がされていました。</p>
			⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 34 0歳児が、長時間過ごすことに適した生活と遊び及び環境への工夫がされている。</li> <li>□ 35 0歳児が、安心して、保育士等と愛着関係（情緒の安定）が持てるよう配慮している。</li> <li>■ 36 子ども表情を大切に、応答的な関わりをしている。</li> <li>■ 37 0歳児が、興味と関心を持つことができる生活と遊びへの配慮がされている。</li> <li>■ 38 0歳児の発達過程に応じて、必要な保育を行っている。</li> <li>■ 39 0歳児の生活と遊びに配慮し、家庭との連携を密にしている。</li> </ul>	<p>○乳幼児は発達が著しく個人差も大きいことを踏まえ食事や睡眠等の基本的な生活リズムを整えながら、一人ひとりの生活リズムに合わせて過ごせるよう保育室のスペース作りや職員の連携などの工夫がみられました。</p> <p>○保護者との連絡ノートや送迎時のやり取りから健康状態の把握や心身の状態、またできるようになったことを共に喜び合うなど保護者との連携が密にできています。</p> <p>○愛着心を育てるため特定の保育士と関わる体制（担当の保育士をある程度決める、など）が整うことでより安定した生活が期待されます。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			⑥ 3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 40 一人ひとりの子どもの状況に応じ、子どもが自分でしようとする気持ちを尊重している。</li> <li>■ 41 探索活動が十分に行えるような環境を整備している。</li> <li>■ 42 子どもが安心して遊びを中心とした自発的な活動ができるよう、保育士等が関わっている。</li> <li>■ 43 子ども自我の育ちを受け止め、保育士等が適切な関わりをしている。</li> <li>■ 44 保育士等が、友だちとの関わりの中を立ちをしている。</li> <li>□ 45 様々な年齢の子どもや、保育士以外の大人との関わりを図っている。</li> <li>■ 46 一人ひとりの子どもの状況に応じ、家庭と連携した取組や配慮がされている。</li> </ul>	<p>○手作り玩具を用意し子どもの興味や発達に応じて、手首の返しや小さいものを掴む、などの経験ができるように工夫されていました。</p> <p>○感染などへの抵抗力が弱い乳児の特性を理解し室内の換気や除菌、オムツ交換後の処理など衛生面において細心の注意がみられます。</p> <p>○未満児室は園庭に面していないため大きいクラスの子どもの姿を見る機会が少なく体操を真似して体を動かすなどの模倣がしにくい、時間を調整するなど積極的に以上児とも関わる機会を更に設けるよう期待されます。</p>
			⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 47 3歳児の保育に関して、集団の中で安定しながら、遊びを中心とした興味関心のある活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。</li> <li>■ 48 4歳児の保育に関して、集団の中で自分の力を発揮しながら、友だちとともに楽しみながら遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。</li> <li>■ 49 5歳児の保育に関して、集団の中で一人ひとりの子どもの個性が活かされ、友だちと協力して一つのことをやり遂げるといった遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。</li> <li>■ 50 子どもの育ちや取り組んできた協同的な活動等について、保護者や地域・就学先の小学校等に伝える工夫や配慮がされている。</li> </ul>	<p>○大規模園であっても散歩や戸外遊びから異年齢の関わりがもてるよう保育をすすめていました。大きいクラスの子は小さい子に優しくしようとしたり自分ができていることを手伝おうとしたりと心の育ちがみられます。また運動会を経験して年長児にあこがれて行動を真似するなど3、4歳児も活動範囲が広がってきました。</p> <p>○保育士が遊びのきっかけを投げかけたり保育材など自由に使える環境設定をして制作遊びや塗り絵など楽しんでます。保育士は生活の中で肯定の言葉がけをし子どもの意欲を高めていました。</p> <p>○当番活動等を通して友だちとの関りを深めたり自分の役割を果たそうとする気持ちが育っています。</p> <p>○簡単なルールのある集団遊びから自分たちでルールを作るなど友だちと同じ目的をもって協力したり一緒に遊ぶ楽しさを味わっています。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			⑧ 障がいのある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 51 建物・設備など、障がいに応じた環境整備に配慮している。</li> <li>■ 52 障がいのある子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成し、クラス等の指導計画と関連づけている。</li> <li>■ 53 計画に基づき、子どもの状況と成長に応じた保育を行っている。</li> <li>■ 54 子ども同士の間に関わりを配慮し、共に成長できるようにしている。</li> <li>■ 55 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。</li> <li>■ 56 必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている。</li> <li>■ 57 職員は、障がいのある子どもの保育について研修等により必要な知識や情報を得ている。</li> <li>■ 58 保育所の保護者に、障がいのある子どもの保育に関する適切な情報を伝えるための取組を行っている。</li> </ul>	<p>○活動や生活リズム等の状況に応じてクールダウンの場作りや保育士の関りが適切に行われ個々のペースに合わせ安心して過ごす姿が見られました。</p> <p>○個別の指導計画が作成され配慮が必要な子どもへの適切な対応が行われていました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・加配保育士の配置</li> <li>・職員間での情報共有と対応の一貫性</li> <li>・研修会への参加</li> </ul> <p>○保護者との連携を密にし、医療機関の医師の助言を共有し実践しています。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 59 1日の生活を見通して、その連続性に配慮し、子ども主体の計画性をもった取組となっている。</li> <li>□ 60 家庭的でゆったりと過ごすことができる環境を整えている。</li> <li>■ 61 子どもの状況に応じて、おだやかに過ごせるよう配慮している。</li> <li>■ 62 年齢の異なる子どもと一緒に過ごすことに配慮している。</li> <li>■ 63 保育時間の長い子どもに配慮した食事・おやつ等の提供を行っている。</li> <li>■ 64 子どもの状況について、保育士間の引継ぎを適切に行っている。</li> <li>■ 65 担当の保育士と保護者との連携が十分にとれるように配慮している。</li> </ul>	<p>○利用人数に応じて部屋を分けるなど安心してくつろいだ雰囲気でも過ごせる工夫がされています。</p> <p>○保育士間の引継ぎは連絡ノート等を活用し確実に行われています。場合によっては担当が残り直接保護者と話すようにしています。</p> <p>○延長保育専用の玩具を用意するなど更に充実した環境設定が望まれます。</p>
			⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 66 計画の中に小学校との連携や就学に関連する事項が記載され、それに基づいた保育が行われている。</li> <li>■ 67 子どもが、小学校以降の生活について見通しを持つ機会が設けられている。</li> <li>■ 68 保護者が、小学校以降の子どもの生活について見通しを持つ機会が設けられている。</li> <li>■ 69 保育士等と小学校教員との意見交換、合同研修を行うなど、就学に向けた小学校との連携を図っている。</li> <li>■ 70 施設長の責任のもとに関係する職員が参画し、保育所児童保育要録を作成している。</li> </ul>	<p>○小学校との交流を積極的に行い、子どもが小学校への期待が持てるよう交流の機会が設けられていました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校からは保育園での生活の様子を見学に来ています。</li> <li>・必要に応じて小学校での生活体験をしています。</li> <li>・行事等への参加をしています。</li> </ul> <p>○指導計画の中で就学に向けた取り組みが明記され好奇心を大切に学びに向かう社会性を培っています。</p> <p>○小学校職員と保育園職員で定期的に情報交換等の連携が行われ、保育園での生活から積み重ねられた様々な育ちを共有し連続性がもてるように育てたい力、望ましい姿の見通しをもって子どもの発達状況を確認しあったり、特に配慮が必要な子どもへの援助の共通理解が行われています。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
		(3) 健康管理	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 71 子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人ひとりの子どもの心身の健康状態を把握している。</li> <li>■ 72 子どもの体調悪化・けがなどについては、保護者に伝えるとともに、事後の確認をしている。</li> <li>■ 73 子どもの保健に関する計画を作成している。</li> <li>■ 74 一人ひとりの子どもの健康状態に関する情報を、関係職員に周知・共有している。</li> <li>■ 75 既往症や予防接種の状況など、保護者から子どもの健康に関わる必要な情報が常に得られるように努めている。</li> <li>■ 76 保護者に対し、保育所の子どもの健康に関する方針や取組を伝えている。</li> <li>■ 77 職員に乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する知識を周知し、必要な取組を行っている。</li> <li>■ 78 保護者に対し、乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する必要な情報提供をしている。</li> </ul>	<p>○子どもの健康管理マニュアルが明文化され、保護者にも伝えていきます。</p> <p>○子どもの健康状態や発達・発育状態について職員間で確認し、常に把握をしています。</p> <p>○午睡中も定期的に子どもの様子を見回り、異常がないことを確認しています。</p> <p>○保護者との連携を密にし、その日の体調を把握して安全に集団生活が過ごせる配慮をしています。</p> <p>○専門機関との連携の仲立ちをしています。</p> <p>○入園案内や保護者会総会などの場で園の安全対策について知らせています。</p>
			② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 79 健康診断・歯科健診の結果が記録され、関係職員に周知されている。</li> <li>■ 80 健康診断・歯科健診の結果を保健に関する計画等に反映させ、保育が行われている。</li> <li>■ 81 家庭での生活に生かされ保育に有効に反映されるよう、健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝えている。</li> </ul>	<p>○各種検診が計画に基づき実施されています。</p> <p>○健康診断の結果を速やかに伝えていきます。必要に応じて結果に伴う保護者支援をしています。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 82 アレルギー疾患のある子どもに対して、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。</li> <li>■ 83 慢性疾患等のある子どもに対して、医師の指示のもと、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。</li> <li>■ 84 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。</li> <li>■ 85 食事の提供等において、他の子どもたちとの相違に配慮している。</li> <li>■ 86 職員は、アレルギー疾患、慢性疾患等について研修等により必要な知識・情報を得たり、技術を習得している。</li> <li>■ 87 他の子どもや保護者にアレルギー疾患、慢性疾患等についての理解を図るための取組を行っている。</li> </ul>	<p>○アレルギーによる食事の除去については医師の診断書をもとに栄養士、園長、担任等が保護者と面談の上適切に対応しています。</p> <p>○通常の献立表のほかに食材を細かく記した献立表を配布し保護者と一緒にチェックできるようにしています。</p> <p>○アレルギーの対応マニュアルが作成され全職員に周知徹底されていました。職員はそれぞれの役割を分担し組織的に対応が行われていました。</p> <p>○調理員との連携、確認が確実に行われる仕組みがあります。</p> <p>○アレルギー食の提供にはトレーを用い間違いなく提供できるように工夫をしています。</p>
	(4) 食事	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 88 食に関する豊かな経験ができるよう、保育の計画に位置づけ取組を行っている。</li> <li>■ 89 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれる環境・雰囲気づくりの工夫をしている。</li> <li>■ 90 子どもの発達に合わせた食事の援助を適切に行っている。</li> <li>■ 91 食器の材質や形などに配慮している。</li> <li>■ 92 個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。</li> <li>■ 93 食べたいもの、食べられるものが少しでも多くなるよう援助している。</li> <li>■ 94 子どもが、食について関心を深めるための取組を行っている。</li> <li>■ 95 子どもの食生活や食育に関する取組について、家庭と連携している。</li> </ul>	<p>○保育士の言葉がけや友だちとの会話など楽しい雰囲気の中で食欲旺盛に食べる姿が見られました。</p> <p>○食育計画が作成され調理員も含めた全職員で、無理なく食事に関わるマナーを学んだり、栄養などにも関心を持たせて楽しく食べられるよう取り組んでいました。</p> <p>○子どもたちは調理員に親しみをもって食事の出来上がりをにおいや調理する場面から楽しみに待つことができている。</p>	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 96 一人ひとりの子どもの発育状況や体調等を考慮した、献立・調理の工夫をしている。</li> <li>■ 97 子どもの食べる量や好き嫌いなどを把握している。</li> <li>■ 98 食事の内容は、県産の農畜産物等を利用したものとしている。</li> <li>■ 99 残食の調査記録や検食簿をまとめ、献立・調理の工夫に反映している。</li> <li>■ 100 季節感のある献立となるよう配慮している。</li> <li>■ 101 地域の食文化や行事食などを取り入れている。</li> <li>■ 102 調理員・栄養士等が、食事の様子を見たり、子どもたちの話を聞いたりする機会を設けている。</li> <li>■ 103 衛生管理の体制を確立し、マニュアルにもとづき衛生管理が適切に行われている。</li> </ul>	<p>○一人ひとり、その子の体調や食べられる量、好き嫌いなどを把握して提供しています。</p> <p>○食材はできる限り地元産を使い季節感のある食事の提供に努めていました。また、園で育てた野菜も調理し提供しています。</p> <p>○衛生管理マニュアルに基づき安全で安心な食事の提供に努めています。</p> <p>○調理員間での連携を深め時間内に安全で美味しい食事の提供に努めています。</p> <p>○園の畑でとれた野菜を展示したり絵に描いたりして食べ物への関心が深まり食欲につながっています。苦手なものでも自分で収穫することにより『口にしようかな』という気持ちにもつながっています。</p>
	2 子育て 支援	(1) 家庭との緊密な連携	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 104 連絡帳等により家庭との日常的な情報交換を行っている。</li> <li>■ 105 保育の意図や保育内容について、保護者の理解を得る機会を設けている。</li> <li>■ 106 様々な機会を活用して、保護者と子どもの成長を共有できるよう支援をしている。</li> <li>■ 107 家庭の状況、保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。</li> </ul>	<p>○年度当初の保護者会や、入園のしおり、月々の園だより、連絡ノートなどを用いて日常の活動を知らせています。</p> <p>○事務室では、保護者の意向に耳を傾け希望や疑問に応えられるよう必要に応じて相談を受け保護者の安心が得られるよう丁寧に対応しています。</p> <p>○家庭訪問や保護者会、個別懇談会などの機会に保護者からの要望を把握したり不安がないよう取り組んでいます。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
		(2) 保護者等の支援	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 108 日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係を築くよう取組を行っている。</li> <li>■ 109 保護者等からの相談に応じる体制がある。</li> <li>■ 110 保護者の就労等の個々の事情に配慮して、相談に応じられるよう取組を行っている。</li> <li>■ 111 保育所の特性を生かした保護者への支援を行っている。</li> <li>■ 112 相談内容を適切に記録している。</li> <li>■ 113 相談を受けた保育士等が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制を整えている。</li> </ul>	<p>○保護者にとって必要な情報や活動の様子を園だよりや掲示板等でタイムリーに提供することで保護者の安心や信頼が得られています。</p> <p>○保護者からの相談や要求には丁寧に応じ、常に全職員で情報を共有しています。</p> <p>○相談場所はプライバシーに配慮し担任だけでなく園長も同席して保護者の支援をしています。</p> <p>○家庭の状況を把握し共感しながら必要な場合には専門機関と連携するなどの支援をしています。</p> <p>○相談内容は適切に記録、保管しています。</p>
			② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 114 虐待等権利侵害の兆候を見逃さないように、子どもの心身の状態、家庭での養育の状況について把握に努めている。</li> <li>■ 115 虐待等権利侵害の可能性がある場合と職員が感じた場合は、速やかに保育所内で情報を共有し、対応を協議する体制がある。</li> <li>■ 116 虐待等権利侵害となる恐れがある場合には、予防的に保護者の精神面、生活面の援助をしている。</li> <li>■ 117 職員に対して、虐待等権利侵害が疑われる子どもの状態や行動などをはじめ、虐待等権利侵害に関する理解を促すための取組を行っている。</li> <li>■ 118 児童相談所等の関係機関との連携を図るための取組を行っている。</li> <li>□ 119 虐待等権利侵害を発見した場合の対応等についてマニュアルを整備している。</li> <li>□ 120 マニュアルにもとづく職員研修を実施している。</li> </ul>	<p>○虐待についての研修会に参加し全職員で学びを共有しています。</p> <p>○虐待や不適切な養育態度が疑われる場合は保護者のプライバシー等に配慮し関係機関との連携をとる仕組みがあります。</p> <p>○日ごろから子どもの心身の状態を観察したり保護者との関わりに配慮しています。</p> <p>○園長を窓口として対応しますが、対応マニュアルを整備し全職員が意識し組織的な取り組みができることが更に期待されます。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
	3 保育の質の向上	(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 121 保育士等が、記録や職員間の話し合い等を通じて、主体的に自らの保育実践の振り返り（自己評価）を行っている。</li> <li>■ 122 自己評価にあたっては、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの心の育ち、意欲や取り組む過程に配慮している。</li> <li>■ 123 保育士等の自己評価を、定期的に行っている。</li> <li>■ 124 保育士等の自己評価が、互いの学び合いや意識の向上につながっている。</li> <li>■ 125 保育士等の自己評価にもとづき、保育の改善や専門性の向上に取り組んでいる。</li> <li>■ 126 保育士等の自己評価を、保育所全体の保育実践の自己評価につなげている。</li> </ul>	<p>○保育実践の振り返りを定期的に行い、年度途中であっても指導計画の修正をして子どもの育ちに沿った保育をすすめています。</p> <p>○職員同士で検討を重ねながら一人ではなく互いに保育のよさや課題が確認できるように話し合いをしています。</p>